

画像から見る中国人民解放軍 軍改革後の戦力整備の方向性（改訂版）

中国人民解放軍情報支援部隊成立大会



写真：情報支援部隊編成完結式
2024年4月19日

2024. 5. 31

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

目 次

- 1 軍改革の概要
- 2 台湾統一に向けた戦力整備の方向性
- 3 画像から見る整備の状況

軍改革の概要

習政権 年齢	1期	2期	3期	4期?	(毛沢東享年)	(鄧小平享年)		
			71才	74才	79才	82才	92才	96才
年	2012	13 14 15 16 17 18 19 20	21 22 23 24 25 26	27 28 29 30 31 32 33 34	35 36 37 38 39 40 41	42 43 44 45 46	47 48 49 50	
			建党百年	建军百年			建国百年	
国家 目標	小康社会の実現		社会主義近代化の基本的実現			社会主義近代化強国の完成		
						中華民族 偉大復興		
国防 目標	機械化を基本的実現 情報化建設に重大進展		国防と軍隊の近代化を基本的実現			世界一流の軍隊を全面的に完成		
			建军百年奮闘目標			台湾 統一		
軍 改 革	13.11:軍改革公表							
	14.3:国防・軍隊改革深化領導小組第1回會議							
	15.11:中央軍委改革工作會議		18.11:政策制度改革工作會議		22.9:国防軍隊改革檢討會			
	15.12:創設 ・陸軍指導機構 ・ロケット軍 ・戰略支援部隊 16.1:中央指導機構 16.2:5大戦区 16.9:聯勤保障部隊	17.4:集團軍 改編 18.1:武警改編 18.7:海警編入	18.1:訓練開始動員大会 18.1:新軍事訓練大綱 19.7:軍商業活動終了 20.6:予備役中央軍委統一指揮 20.11:聯合作戰綱要(試行) 21.2:新型軍事訓練體系構築の 決定	・既改革の総括・定着 ・事後の改革計画策定 ・新任務・情勢への対応 ・戦争準備に焦点				
機構改革		部隊改革		制度改革		運用改革		
組織の枠組整備		訓練できる環境の整備		部隊運用要領の整備				

組織改編され、訓練できる環境にある部隊をもって、台湾統一に向けた部隊運用を改革中



1 速戦即決

⇒米軍来援前に台湾政権を駆逐

- (1) 渡海侵攻能力の強化
- (2) 部隊の平時前方展開
即応態勢維持・侵攻兆候偽騙

2 日米の領域使用拒否

⇒部隊を安全に経海空輸送

- (1) BMD (弾道ミサイル防衛) 突破能力強化
自衛隊・米軍の展開阻止
- (2) 対艦・防空能力強化
海上・航空優勢の獲得

3 米の接近阻止

⇒広域で費用対効果の高いミサイルによる来援遅滞

- (1) 対艦弾道ミサイルの精度向上
- (2) BMD突破能力の延伸

4 相互確証破壊保証

⇒米の核使用牽制

- (1) LOW (警報即発射) 態勢確立
- (2) ICBM残存性強化
- (3) SLBMの射程延伸

米本土核抑止

第1列島線

第2列島線

1(1) 渡海侵攻能力の強化～強襲揚陸艦の就役

○ Yuzhao級トック型揚陸艦に加え、水陸両用部隊・ヘリ部隊を同時輸送可能なYushen級強襲揚陸艦を2021年から3隻就役

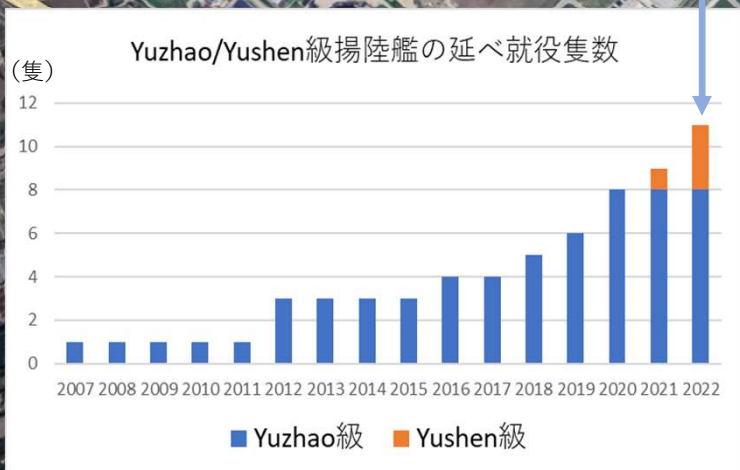
上海浦東基地



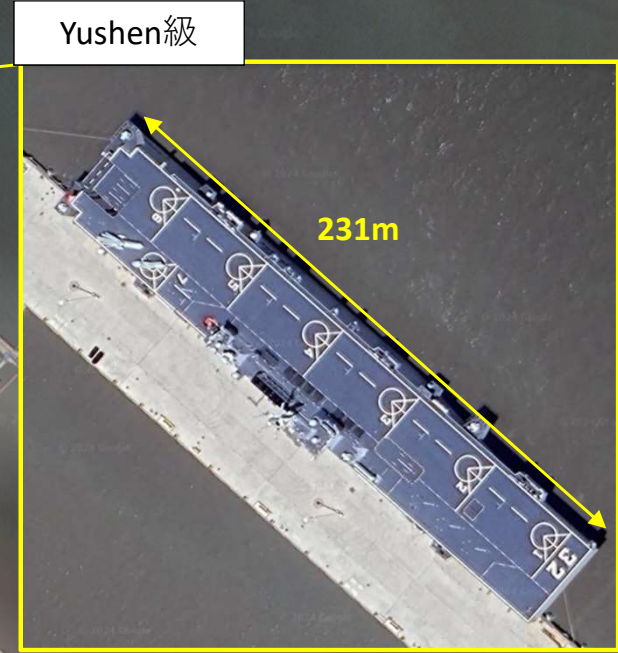
Google Earth 203.5.28

长江

種別	艦級	搭載能力		保有数
		装甲車	ヘリ	
強襲揚陸艦	Yushen	60	28	3
トック型揚陸艦	Yuzhao	60	4	8



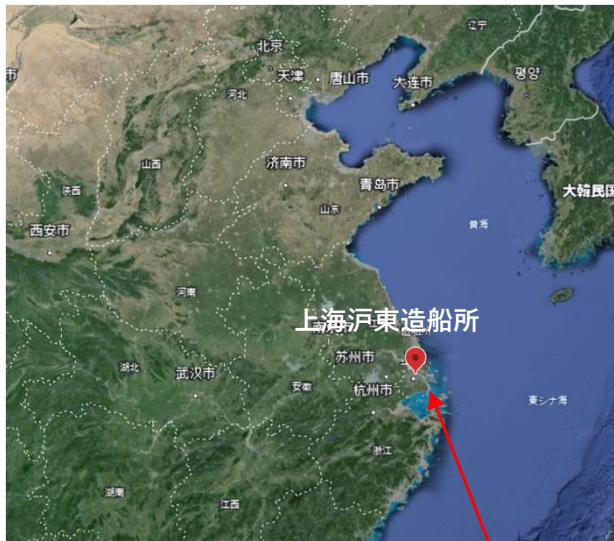
資料源：Military Balance2023



陸空戦力同時輸送能力を保有する強襲揚陸艦により、ヘリに支援された陸上部隊が独立的に着上陸可能

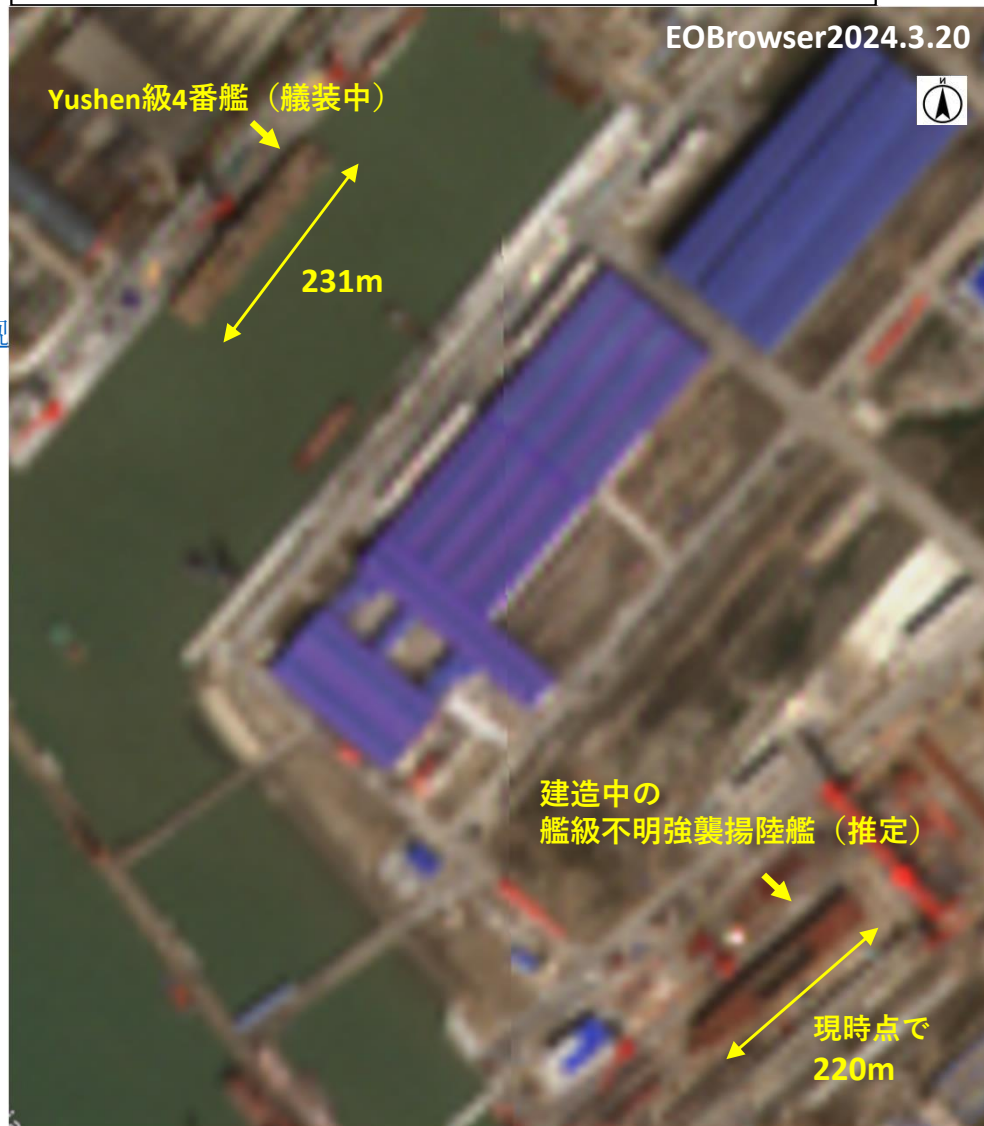
1(1) 渡海侵攻能力の強化～強襲揚陸艦の建造

○ 23年12月、上海沪東造船所でYushen級4番艦が進水、艤装中



(資料源：網 国平視)

進水後のYushen級4番艦と建造中の強襲揚陸艦



ドック内のYushen級



強襲揚陸艦を引き続き建造、同級又は新型強襲揚陸艦も建造の可能性、陸空戦力同時輸送能力を強化

1(1) 渡海侵攻能力の強化～強襲揚陸艦Yushen級の戦力化

- 2023年3月、Yushen級1番艦は南シナ海・西太平洋にて海軍陸戦隊と共に30日間の遠海訓練を終了



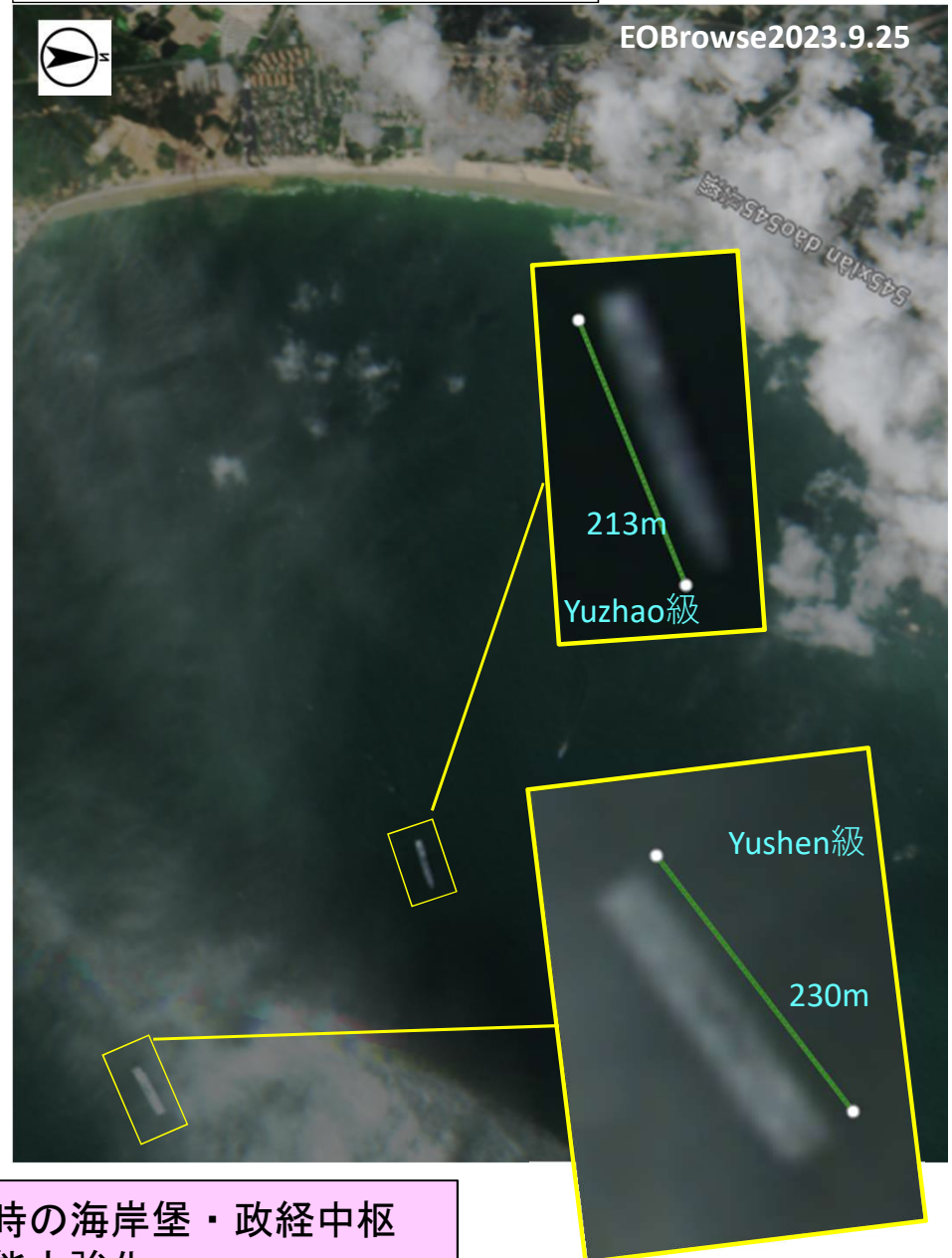
- 2023年6月、Yushen級 2 番艦は大隅海峡を通過し太平洋へ航行

ユーシェン級揚陸艦 (艦番号「32」)



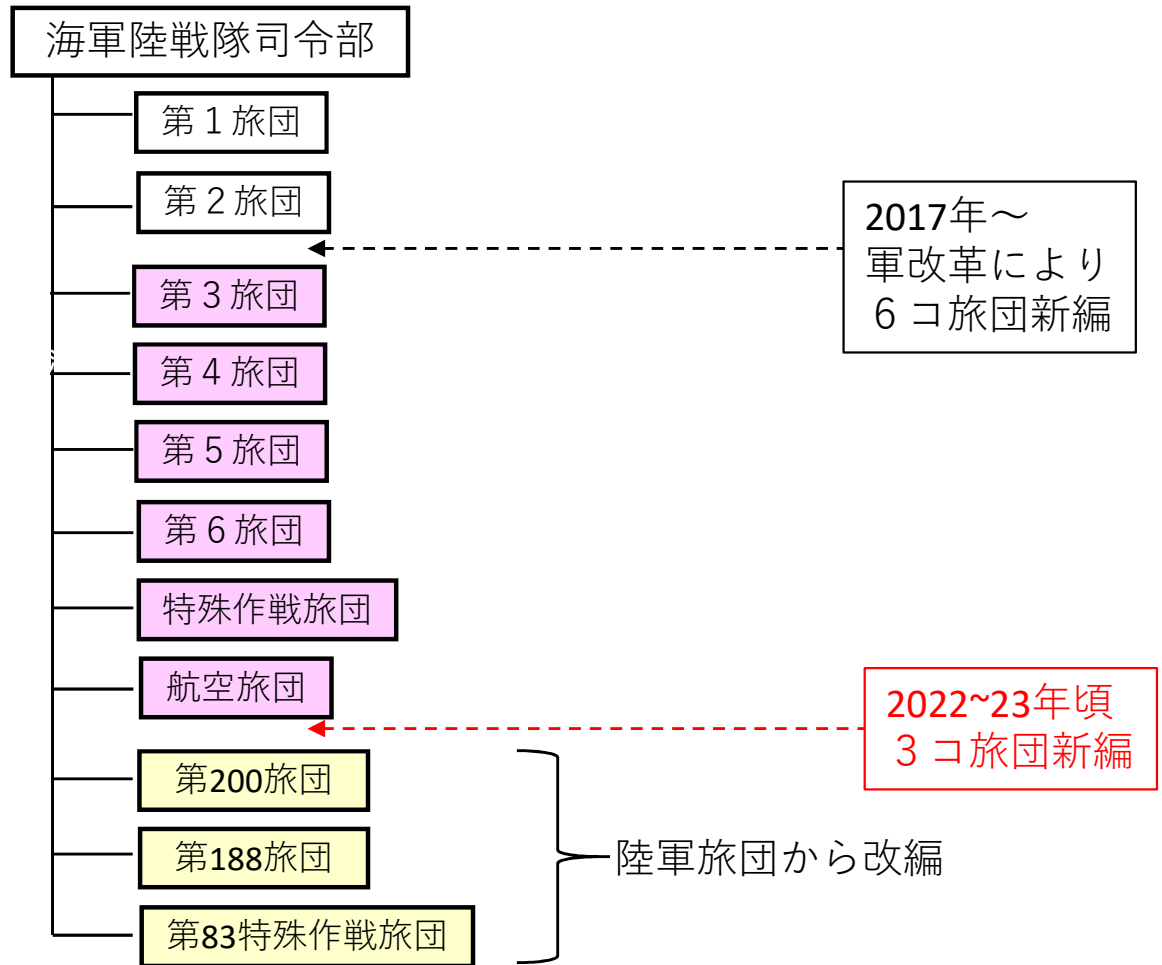
- 2023年9月、Yushen級 (艦番号不明) は東部戦区で陸軍と統合着上陸演習を実施

東山島着上陸訓練場での訓練状況



陸戦隊・陸軍水陸両用部隊等と訓練を実施、台湾侵攻時の海岸堡・政経中枢等の重要施設・島嶼確保等に使用する部隊を輸送する能力強化

1(1) 渡海能力の強化～海軍陸戦隊旅団の新編



○ 23年以降、陸軍3コ旅団の人員が海軍の軍装で登場

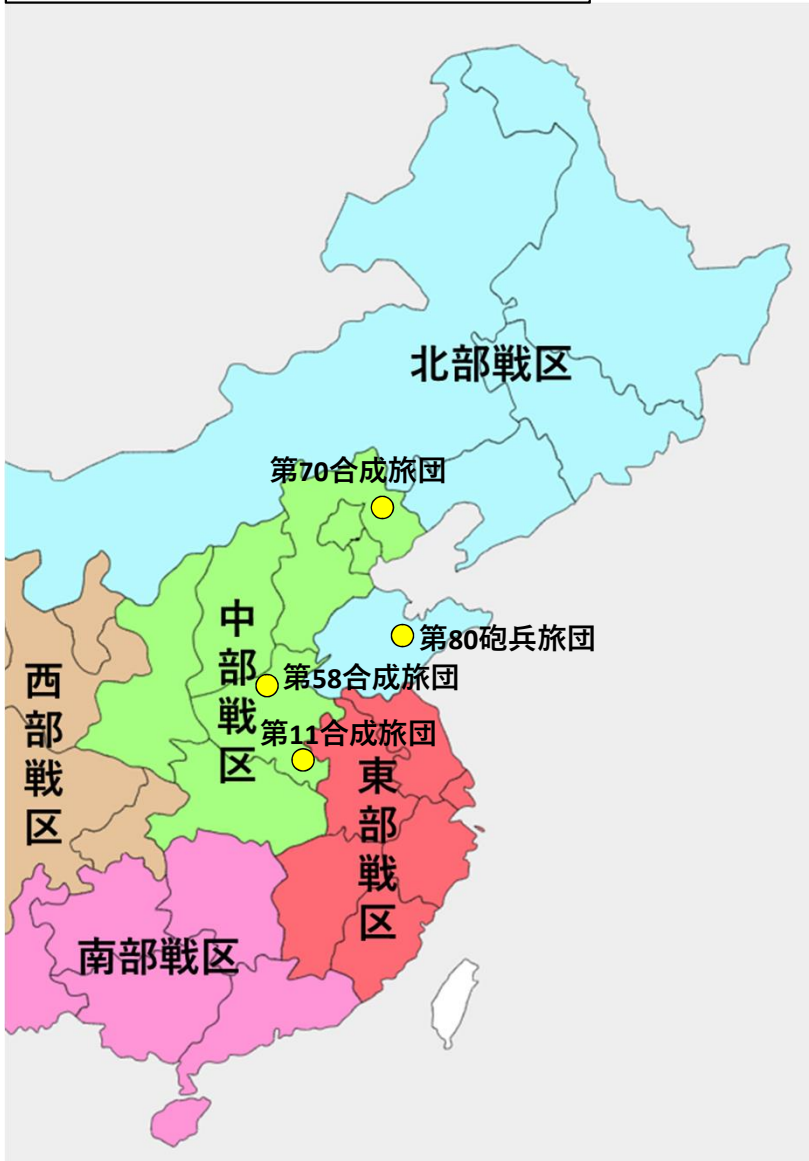


陸戦隊旅団新編により、島嶼・重要施設等占拠能力強化

1(1) 渡海侵攻能力の強化～内陸部隊の渡海訓練

○ 台湾作戦主担当の東部・南部戦区以外の内陸部の陸軍部隊も駐屯地の模擬船舶訓練場で船舶への搭載訓練を実施

駐屯地で模擬船舶訓練場確認部隊



参考:「中國人民解放軍基地及設施」Joseph.W

第70合成旅団



第80砲兵旅団



第58合成旅団



第11合成旅団



台湾に第2波以降に侵攻する可能性のある部隊が渡海訓練を実施、継戦能力強化

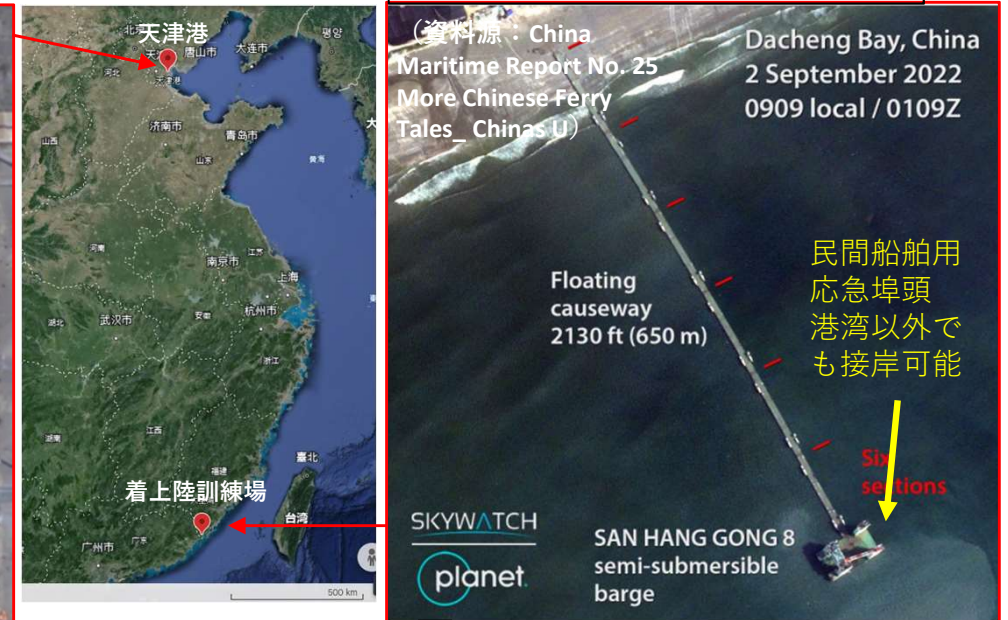
1(1) 渡海侵攻能力の強化～民間船舶の活用

○ 民間船舶を利用した着上陸訓練が年々拡大

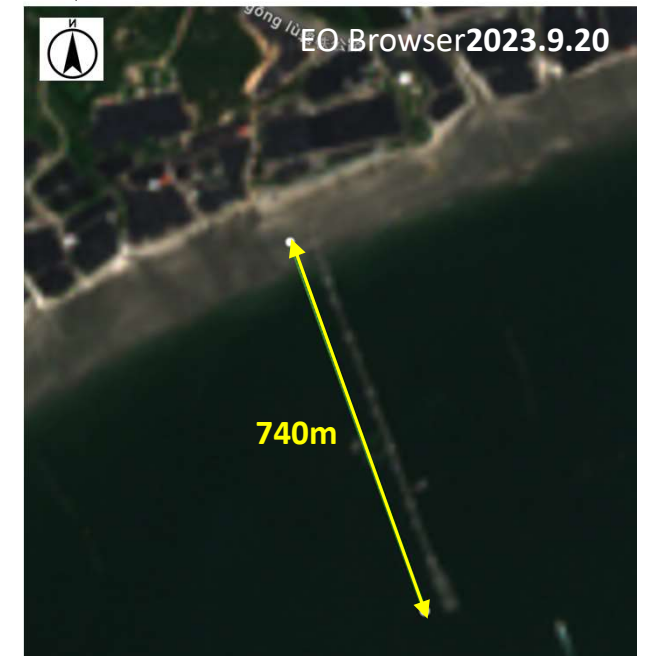
民間船舶（RORO船）への軍用車両搭載



民間船舶用応急埠頭の構築



延長により係留可能な船舶増加

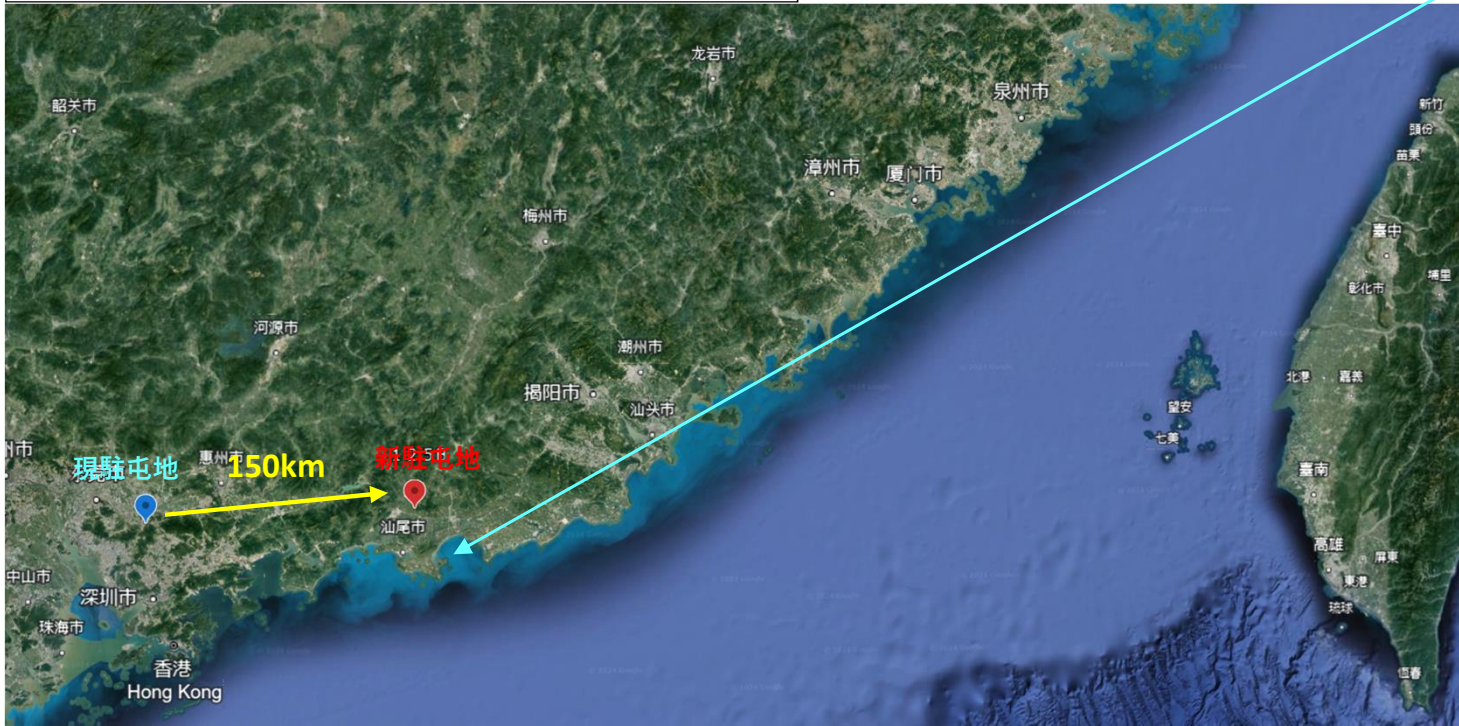


民間船舶との訓練を深化させ、台湾海峡渡海時の輸送艦の不足を補完

1(2) 平時前方展開～陸軍水陸両用部隊

○ 台湾正面の着上陸訓練場近傍に新駐屯建設

台湾侵攻任務を有する水陸両用合成旅団駐屯地



着上陸訓練場



参考:「中國人民解放軍基地及設施」Joseph.W

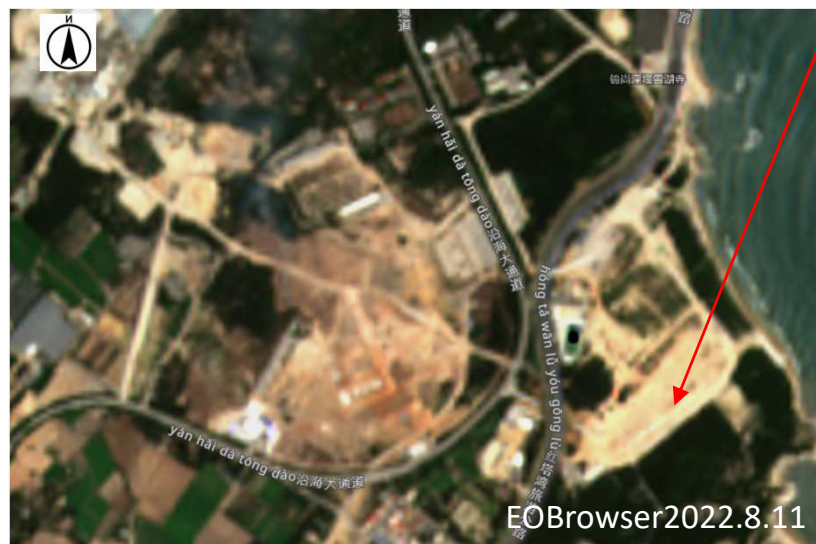
新駐屯地建設状況



訓練場から揚陸艦への搭載は非効率であるが、訓練を装い、港湾に集結せず直接搭載・侵攻も可能

1(2) 平時前方展開～砲兵部隊

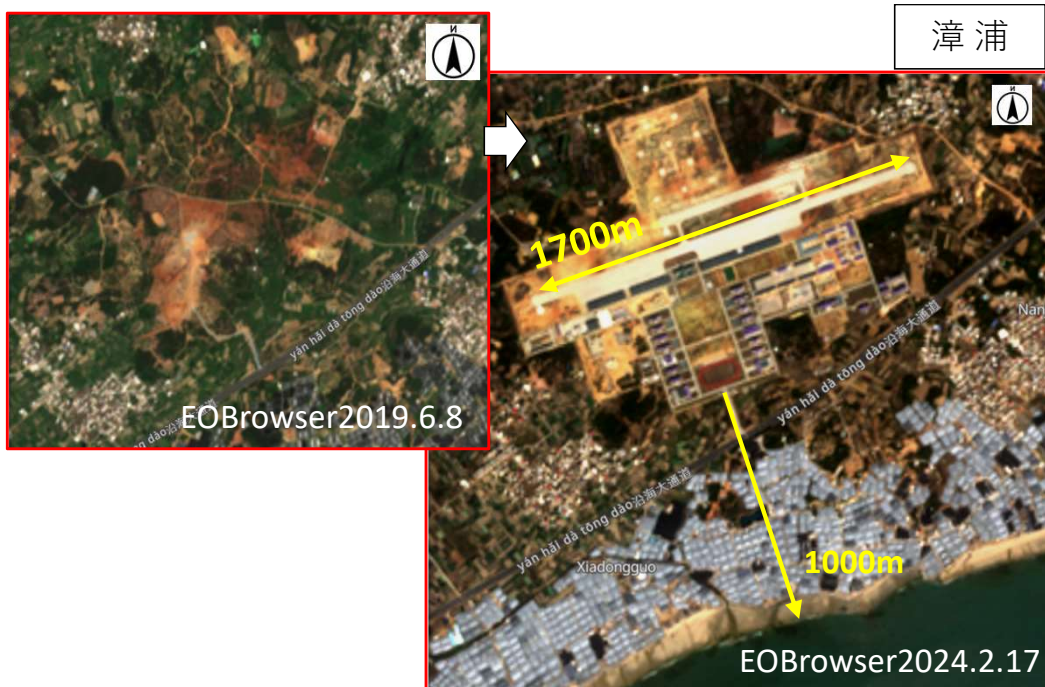
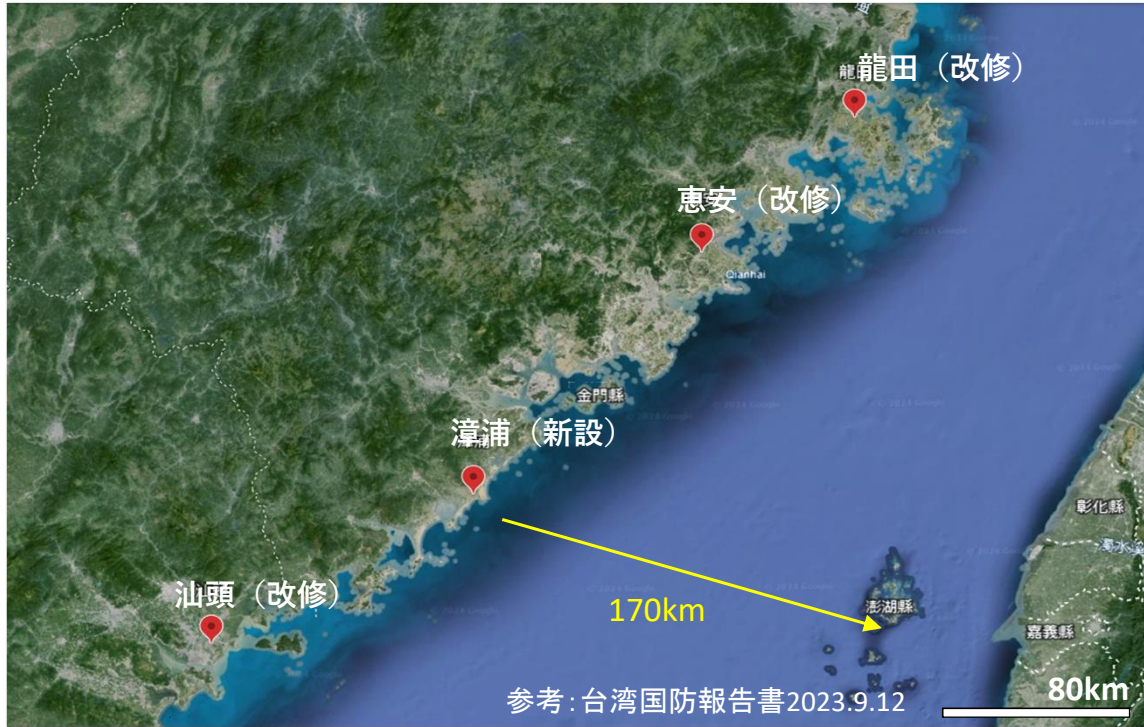
○ 台湾正面に、砲兵陣地に隣接した新駐屯地建設



台湾射程圏内に砲兵を迅速かつ常時展開できる態勢維持、台湾への牽制と共に侵攻兆候を偽騙

1(2) 平時前方展開～へり部隊

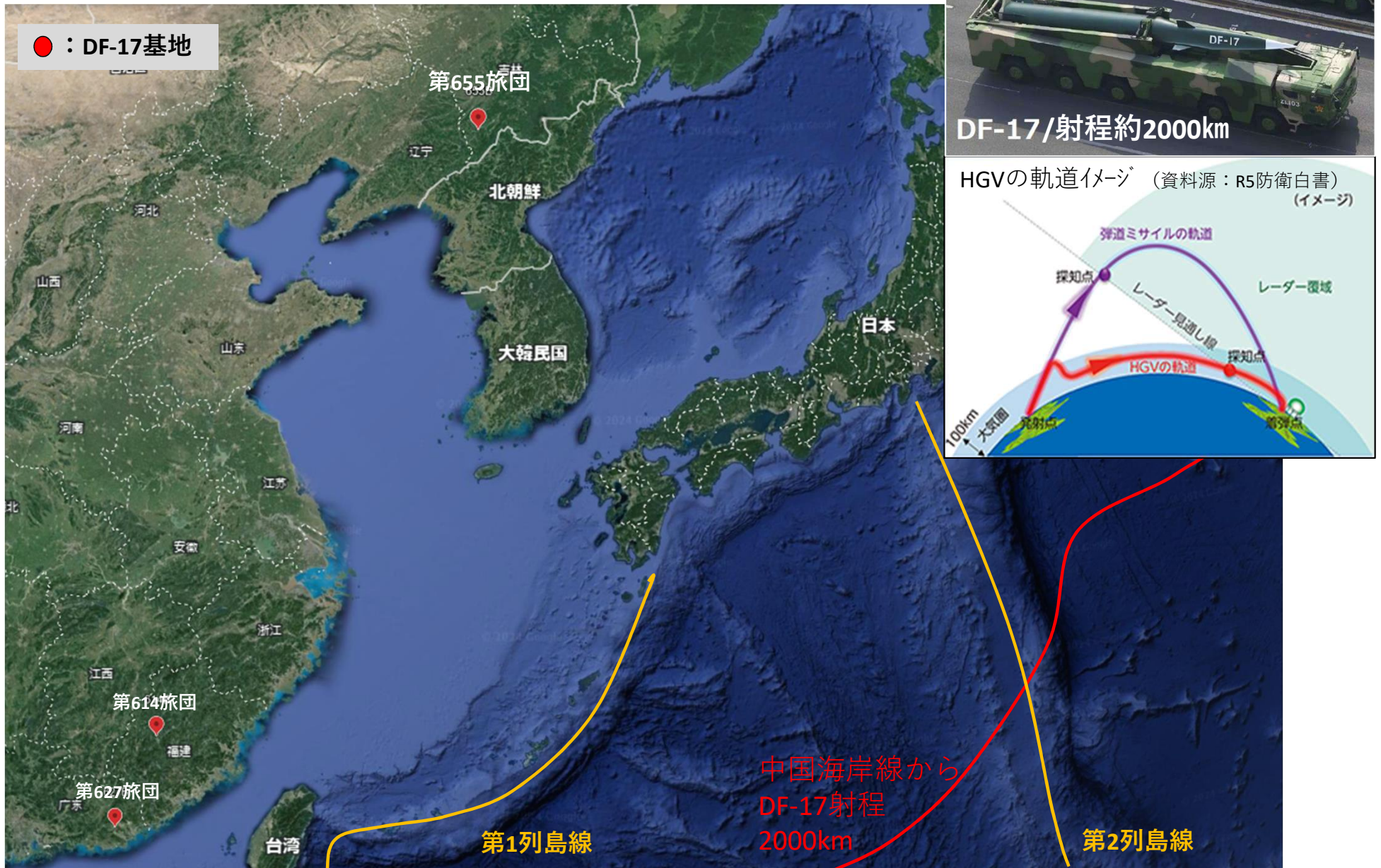
○ 台湾正面にへり駐機可能な飛行場を新設・改修



へりを常時展開、台湾へ低空侵入可能な態勢維持

2(1) BMD突破能力強化～HGVの配備

○ HGV（極超音速滑空兵器）搭載のDF-17を2019年に公開



参考：2023-MILITARY-AND-SECURITY-DEVELOPMENTS-INVOLVING-THE-PEOPLES-REPUBLIC-OF-CHINA、web_peoples_liberation_army_rocket_force_order_of_battle_07102023

第一列島線を射程内におさめ、大気圏内を変則的な軌道で飛行し探知が困難なHGVを配備

2(1) BMD突破能力強化～HGV基地増設

○ 対日指向ミサイル配備基地でDF-17のための施設が概成

第655旅団基地

— : 基地境界

駐車場

DF-17TEL (輸送起立発射機) /Trnsporter (ミサイル運搬・再装填車) 17m

17m

新設施設

高層施設 (概成)

EO Browser2023.10.12

高層施設 (建設中)
ミサイルを起立させて整備等するための施設

Google Earth 2022.11.18~

200 m

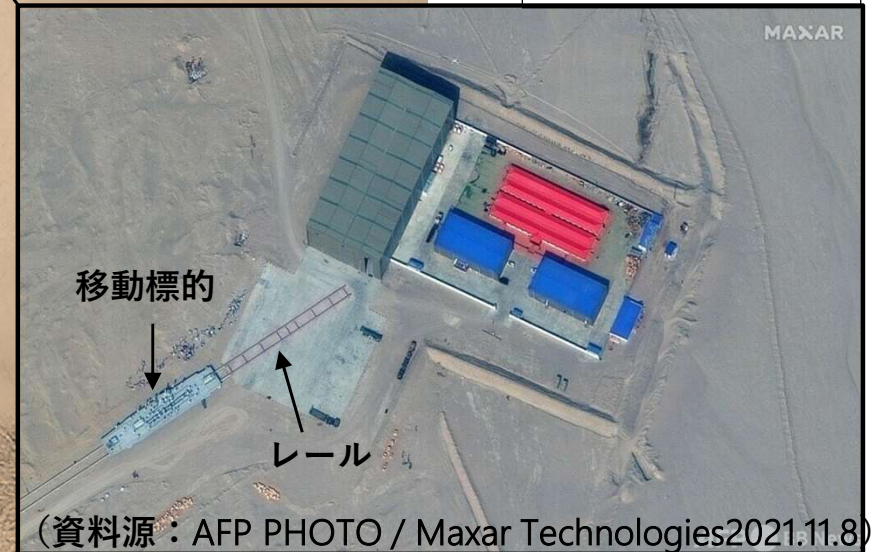
日本のBMD突破し、在日米軍・自衛隊の展開・戦力発揮阻止できる能力強化

新疆地区着弾場



Xinjiang Expressway

移動標的試験施設



(資料源：AFP PHOTO / Maxar Technologies2021.11.8)

レール上の移動標的



米空母：J.R.フォート*

337×78m

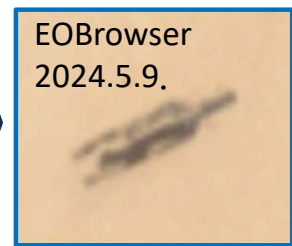


(資料源：時事2017.8.14)

空母型固定標的
(整備前)



整備後

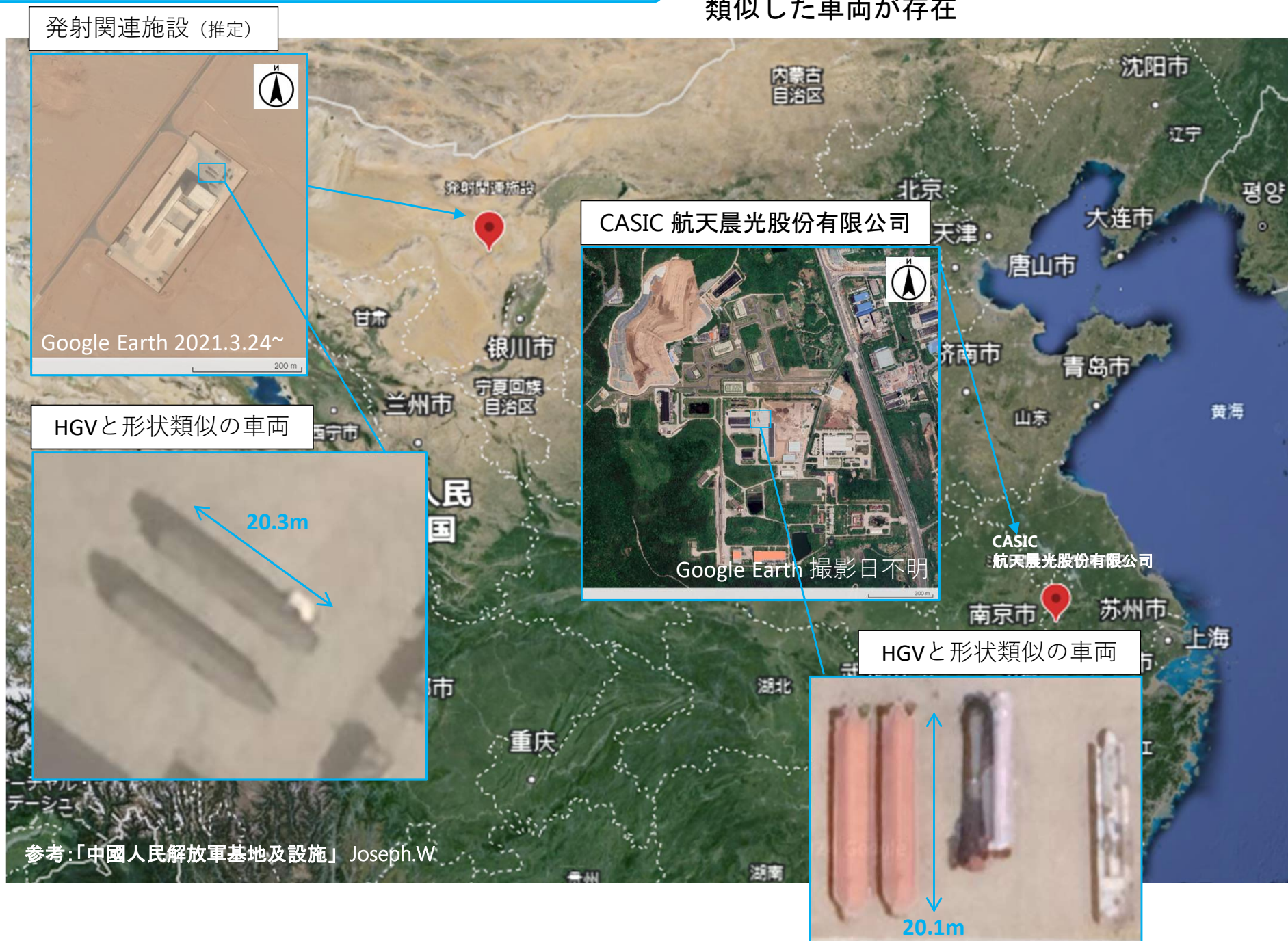


2 km EOBrowser2023.12.01

固定目標・移動目標に対する試験を継続、対艦ミサイルの精度を向上

3(2) BMD突破能力のあるミサルの延伸 ~HGVの長射程化

○ ミサル関連施設でDF-17TELより大型でHGVと形状の類似した車両が存在



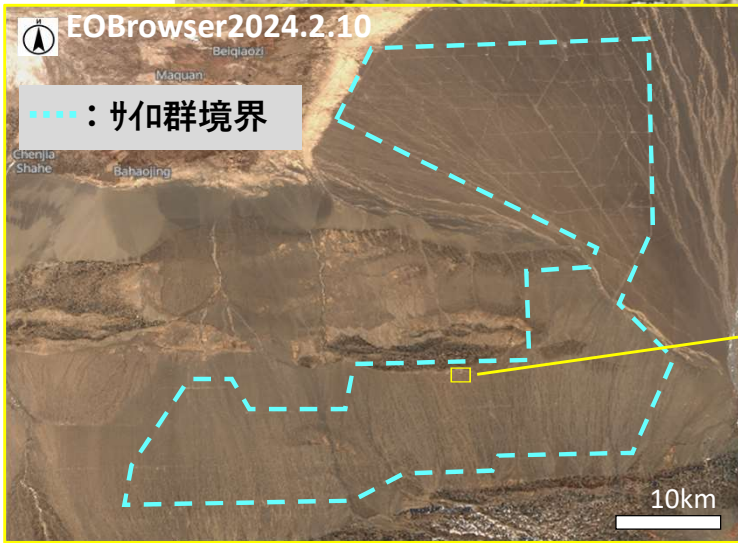
第2列島線での米軍戦力発揮阻害を企図し、DF-17より長射程のHGVを開発の可能性

4(1) LOW態勢確立～固体燃料ICBMサイロ群の建設

○：固体燃料式ICBMのDF-31/41 用の3コサイロ群建設
 玉門は運用部隊用の駐屯地も概成



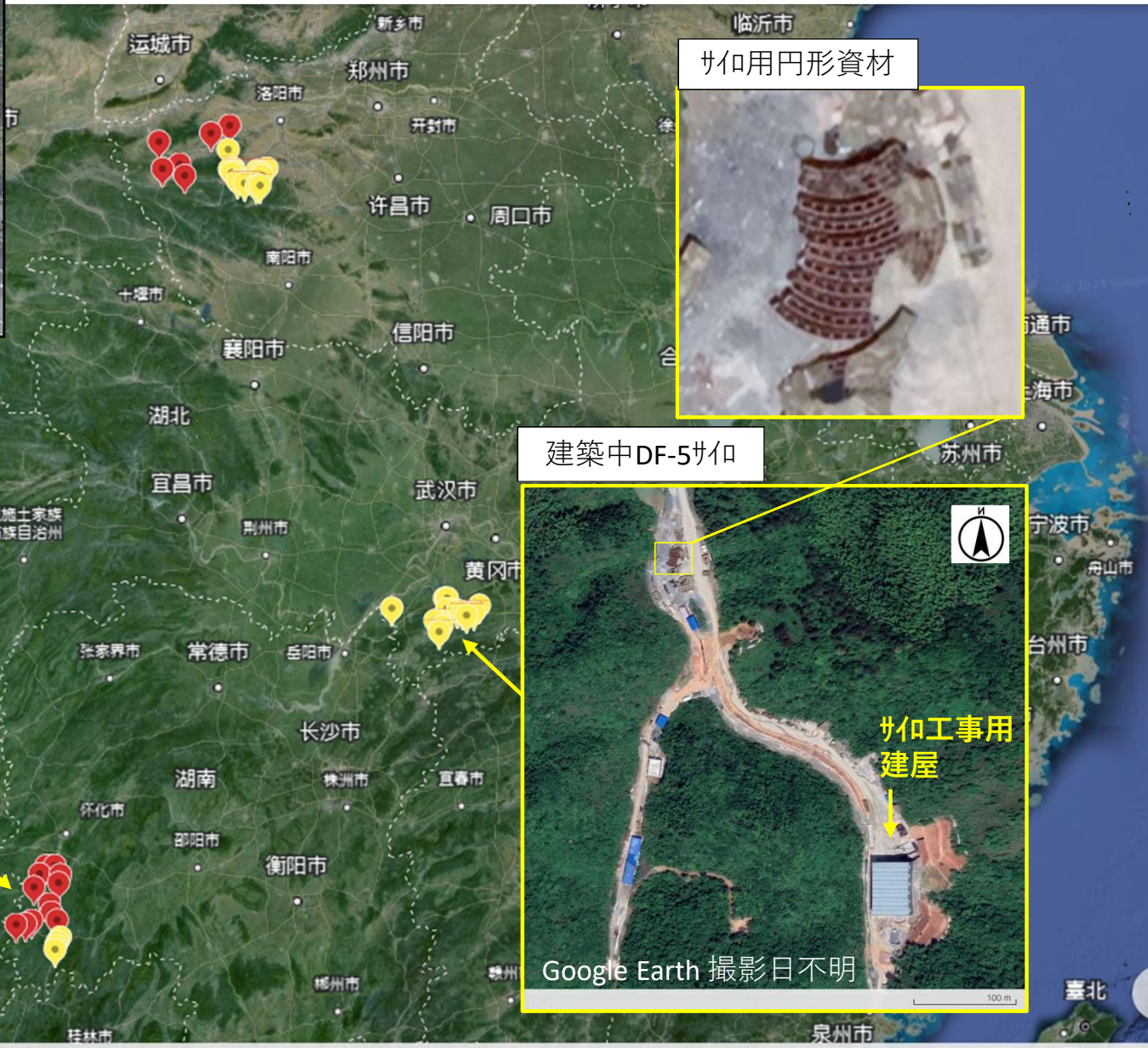
地区	確認サイロ数
玉門（甘粛省）	120
哈密（新疆）	100
杭錦（内モンゴ）	30-36



米の核ミサイル発射を探知後、中国着弾前に迅速に発射可能な固体燃料式ICBMサイロ群を建設。LOW（警報即発射）態勢を整備

4(2) ICBM残存性強化～ICBMサイロの建造：DF-5

○ 液体燃料式ICBMであるDF-5サイロを運用かつ建設継続



●: 運用中サイロ (18)
 ●: 建設中サイロ (30)
 ○ () 内は23年時点での確認数

資料源:
[web_peoples_liberation_army_rocket_force_order_of_battle_07102023](http://web.peoples_liberation_army_rocket_force_order_of_battle_07102023)

相互確証破壊を補完するため、サイロを分散、射程・ペイロードの最も大きいDF-5の残存性向上

ま と め

1 軍改革の現状

台湾統一に向け、組織改編され練成された部隊の運用要領を改革中

2 戦力整備の方向性

(1) 着上陸侵攻

米軍来援前に台湾政権を駆逐するため、侵攻部隊の量・速度を強化

(2) A 2 A D

日米の行動を阻止するため、費用対効果の高い各種ミサイルを整備

(3) 核抑止

相互確証破壊保証のため、LOW（警報即発射）態勢整備

今後も上記の戦力整備継続と共に、それを支援する情報・サイバー等の新領域や認知戦能力も整備し、統合的な戦力向上を目指す可能性あり